

皮膚科専攻医研修医カリキュラム

I 研修の目標

医師としての全般的な基本能力の訓練を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技術を習得し、関連疾患に関する広い視野を持って診断内容を高める。日本皮膚科学会専門医になるために必要な知識と技能を取得する。

卒後初期研修で皮膚科を研修できなかった者に対して希望により1-2ヶ月程度の基礎的な皮膚科の短期研修を受けることを認める。

研修内容

皮膚科学総論

(1) 皮膚の正常構造、機能および病態生理の知識に基づき、皮膚疾患の診断上必要な一般的診断法および検査法を習得し、さらに、全身および局所療法の一般的原则および適応を実施できる。

(2) 細胞生物学・分子生物学・生理学・生化学・免疫アレルギー学などの基礎知識の上に立って、皮膚の病態生理を認識する。放射線生物学、微生物学、遺伝学などの進歩を皮膚科学に十分に反映させる。

(3) 皮膚疾患に対する適切な治療法の基本的事項を理解し、主要な治療法を実施する。抗生剤、抗菌物質、副腎皮質ステロイド、抗ウイルス剤、抗真菌薬、抗腫瘍薬、免疫抑制薬、免疫賦活薬、抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、レチノイド、DDS、血漿交換療法、光線療法、Narrow-band UVB、PUVA など。

皮膚科学各論

(1) 皮膚炎・湿疹の一般的局所療法・全身療法の原則を実際に適用し、治療する。

(2) 接触皮膚炎の成立機序・病理変化・免疫過程・原因について理解し治療する。

(3) アトピー性皮膚炎の病因論・経過・治療法を理解し治療する。

(4) 蕁麻疹の発生機序、原因、病態・病理などについて理解し治療する。特に、発症機序・原因の多様性、病態形成に關与する化学伝達物質などについて熟知する。

(5) 薬疹の発症機序・病理変化・免疫経過について理解し治療する。

(6) 血管炎の成立機序・病理変化・免疫過程・原因について理解し治療する。

(7) 紅斑症の多彩な症状・分類・概念について熟知するとともに、全身疾患との関係を理解し治療する。

(8) 炎症性角化症・膿疱症の定義・種類・臨床の一般的事項を理解し治療する。

(9) 天疱瘡および類天疱瘡の分類、臨床、病理変化、免疫所見を理解し治療する。

(10) 膠原病の皮膚症状、全身症状・診断基準を熟知し、必要な検査を施行し治療する。

(11) 重症熱傷の全身管理・治療について熟知し実施する。

(12) 褥創の成因と病期分類を熟知し予防法、治療法を理解し実施する。

(13) 上皮性皮膚腫瘍を細胞の分化の方向により分類し理解する。

(14) 悪性黒色腫の各病期別の治療指針を整理し、理解する。

(15) ウイルス性、細菌性、真菌性皮膚疾患、STD を分類・列挙し、病態、疫学、検査法、症状を理解し治療する。

(16) 皮膚外科一般についての適応、方法、限界を理解し指導医のもと実施する。

1 年次研修内容；理解し指導医の指導の下に実施する。

2 年次研修内容；説明ができ実施する。

3 年次研修内容；熟知し、できるかぎり熟練する。

短期研修については指導医、専門医の指導の下、外来患者の診察の見学、補助のみとし、診察は行わない。その期間の皮膚科入院患者については主治医とともに入院患者を受け持つ。

治療について

ステロイドの全身投与、免疫抑制剤の投与、抗癌剤の投与については初期投与量、薬剤量の変更については指導医に報告する。

外科的浸襲を伴う検査、手術について

術者となるときには指導医、不在の時には専門医の指導の下に施行する。

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診	病棟回診	外来診療	病棟回診	外来診療
午後	総回診	手術	検査 症例検討会	手術	総回診

専攻医氏名

A：目標に到達 B：目標に近い C：目標に遠い

	自己評価			指導医評価		
	A	B	C	A	B	C
皮膚科学総論 1						
2						
3						
皮膚科学各論 1						
2						
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
患者、家族に対する 確な病状説明ができる						
基本的手術手技ができる						
外来診療が的確にできる						
学会活動が適切にできる						
救急処置が適切にできる						